



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

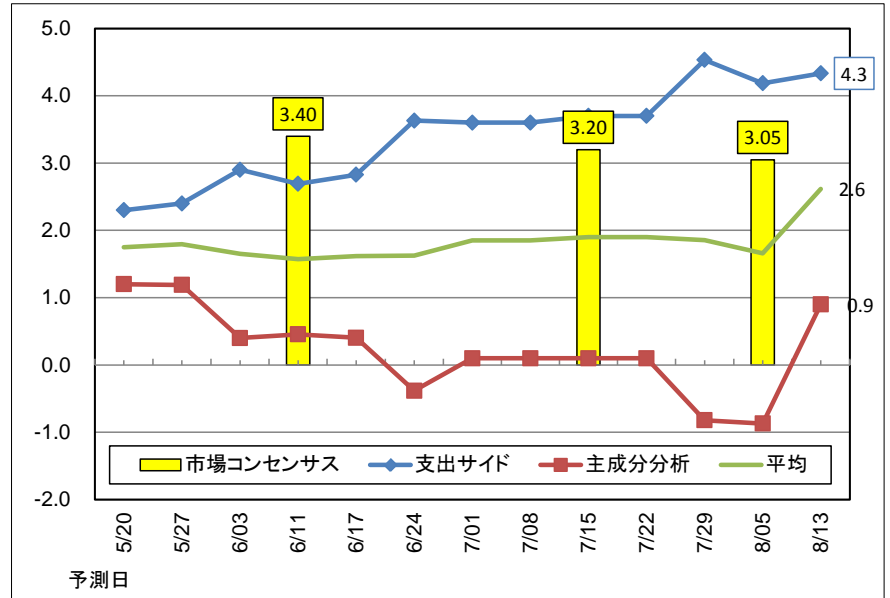
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年8月13日)

ポイント

- ▶4-6 月期の実質 GDP 成長率(1 次速報値)は前期比年率+2.6%となり、3 期連続のプラス成長。伸びは前期より減速し、市場コンセンサスや超短期予測から下振れた。
- ▶年前半に均してみれば 3.0%超の高成長となっており問題ない結果といえよう。
- ▶成長率の中身を見ると、内需は 3 期連続の増加、純輸出も 2 期連続の増加とバランスがとれている。
- ▶成長率をもっとも押し上げたのは民間最終消費支出、次に輸出である。一方、成長率をもっとも押し下げたのは民間企業在庫品増減であり、将来の生産増加を示唆する良い材料といえよう。これを除けば実質 GDP は+3.7%と非常に高い伸びとなる。
- ▶今週の超短期モデル(支出サイド)は、7-9 月期の実質 GDP 成長率を前期年率+4.3%と予測。内需、純輸出ともに拡大のスピードは前期から加速する。景気は着実に回復しているといえよう。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013 年 7-9 月期 (%、前期比年率換算)



<4-6 月期成長率は+2.6%と下振れたが年前半は 3%超の成長、7-9 月期も 4%近い成長が期待できる>

先週(8/5-8/9)及び 12 日に更新されたデータは、7 月の景気ウォッチャー調査、消費動向調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、6 月の鉱工業生産指数(確報値)、第 3 次産業活動指数、消費総合指数、情報サービス業売上高、景気動向指数、国際収支状況及び 4-6 月期 GDP 一次速報値である。

8 月 12 日発表の GDP1 次速報値によれば、4-6 月期の実質 GDP 成長率は前期比年率+2.6%となり、3 期連続のプラス成長。伸びは前期(同+3.8%)より減速し、市場コンセンサス(ESP フォーキャスト 8 月調査：同+3.43%)や超短期予測(支出サイド：+3.8%)から下振れた。ただ年前半に均してみれば 3.0%超の高成長となっており、問題ない結果といえよう。4-6 月期の実質 GDP 成長率の中身を見ると、内需は 3 期連続の増加(+1.8%ポイント)、純輸出も 2 期連続の増加(+0.7%ポイント)とバランスのとれた成長となった。成長率をもっとも押し上げたのは民間最終消費支出であり同+1.9%ポイントと 3 期連続のプラス寄与。次に輸出が同+1.7%ポイントと 2 期連続のプラス寄与となった。一方、成長率をもっとも押し下げたのは実質民間企業在庫品増減(-1.1%ポイント)であった。在庫の圧縮が進んでおり将来の生産増加を示唆する良い材料といえよう。これを除けば実質 GDP は+3.7%と非常に高い伸びとなる。

これらを反映した今週の超短期モデル(支出サイド)は、7-9 月期の実質 GDP 成長率を前期年率+4.3%と予測。内需、純輸出ともに拡大のスピードは前期から加速する。先週の予測(+4.2%)から小幅上方修正である。景気は着実に回復しているといえよう。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7696